

第1章 要請の背景

先スペイン期においてホンデュラス共和国（以下「ホ」国）は、国土の西部がマヤ文明圏の東南地域に属し、国土の中央部・南部が低中央アメリカ文明圏に属する異種文明の接点に位置しており多くのマヤ文明・非マヤ文明の遺産が存在する。マヤ文明遺跡の中でも、コパン遺跡は5世紀から9世紀にかけて栄えたマヤ王朝の代表的な遺跡であり、グアテマラのティカル¹やメキシコのパレンケ²と並んでマヤ文明の一大中心地であった。

「ホ」国の考古学は、マヤ文明の中でも著名なコパン遺跡を中心に、マヤ文明と関連したエル・ブエンテ遺跡やマヤ文明と同時代またはそれ以前から存在した他文明の遺跡が対象である。特にコパン遺跡については、「神聖文字の階段」を始め、マヤ文明圏の中でも最も多くのマヤ文字による碑文及びユニークな高浮雕（たかうきぼり）と呼ばれている石像彫刻等、芸術性の高い遺跡が現存しており、1980年にユネスコ世界文化遺産にも指定された。また近年、初期の頃のものと思われる神殿がピラミッド内部からほぼ完全な形で発掘されたり、昨年（2000年）には新たに王墓が発見されるなど、未だに新しい発見が多い遺跡でもある。特に近年、マヤ文字の解読が急速に進んでおり、これに伴いマヤ考古学も著しく充実してきた。その一方、早い時期から「ホ」国政府及びホンジュラス国立人類学研究所（Institute Hondureño de Antropología e Historia 以下「IHAH」）による努力により、「ホ」国内の遺跡は他国のマヤ遺跡と比べ保存状態がよく、盗掘も少ない。

また、コパン遺跡の周辺には、エル・ブエンテ遺跡などのマヤ文明遺跡が存在している他、「ホ」国中央部にはロス・ナランホス遺跡やジャルメラ遺跡に代表されるマヤ文明と異なる文化遺産も多数存在している。

上記のように多くの文化遺産を抱える「ホ」国はマヤ文明遺跡を中心として自然、文化遺産を含んだ総合的な地域観光開発を図ることを目指している。そして観光開発を通じて、バナナ、コーヒーといった天候や国際市場の相場に左右される農産物の輸出に主に支えられた同国の産業構造からの脱却と国家経済の安定を目指している。

かかる背景の下、学術的に価値あるものとしてだけでなく観光資源としても重要な「ホ」国内の歴史的人類学的文化財の調査・保護・保存・管理・運営を一元的に実施する唯一の政府機関として、1952年に設立されたIHAHは首都テグシガルパに本部を構え、2ヶ所の地区事務所（コパン・ルイナス、ラ・リマ[=サン・ペドロ・スーラ]）及び3ヶ所の支部（ラ・エントラダ、オモア、トルヒージョ）から構成され、文化省管轄下の組織ではあるが、政策決定や予算の面では独立した組織

¹ グアテマラ国グアテマラ市の北約300km、当時としてはマヤ地方のほぼ中心に位置し、BC200～AD900年頃の長期間、マヤ文明の中心地として繁栄した。

² 現在のメキシコ国ユカタン半島の付け根、当時としてはマヤ低地の西端に位置する。AD400～800年頃栄え神殿ピラミッドや宮殿、格子の棟飾りや外壁の美しい化粧漆喰仕上げの塑像、二重勾配の屋根の前面に施された彫刻が特徴である。

として、遺跡の保護に努めてきた。

しかしながら、1990年代にコパン遺跡にて実施された遺跡保存措置を伴わない過度な発掘調査（例：アクロポリス³内部における複雑なトンネル網発掘）等の人為的要因に加え、1998年10月末に「ホ」国を襲ったハリケーン「ミッチ」やその後の大雨により、コパン遺跡の一部が流失するなど IHAH の度重なる保護のための処置にもかかわらず、遺跡劣化の進行が止まっていない。また、他の考古学的遺跡についても都市部においては住宅開発等による遺跡の消滅、「ホ」国東部に広がる未開発地域については未登録遺跡からの遺物の盗掘といった問題も未だに残っている。かかる状況を受け IHAH は 1999 年、「文化遺産救済登録計画」を策定し「ホ」国内に散在する遺跡の記録・登録作業を急ぐと同時に、世界遺産に登録されているコパン遺跡については、これ以上の破壊をくい止めるべく、「ホ」国及び世銀の支援を得て「コパン遺跡保存統合計画（Programa Integral de Conservación del Parpue Arqueológico Copán – 以下「PICPAC」）」を策定し、これらを 1999 年 3 月に開始した。

この PICPAC における計画内容は、地域開発やハリケーン後の復旧による開発計画の消滅しつつある、コパン谷に存在する遺跡の緊急発掘、アクロポリス内トンネルやコルテ⁴修復 / 補強、マヤ文明遺跡の測量・記録及び文化省の協力の下でコパン遺跡のビデオプログラム制作・テレビ放映による「ホ」国民の文化遺産保護意識の啓発等がある。しかし、IHAH が所有する機材は、1983 年度に我が国文化無償にて供与された機材以外は殆どなく、PICPAC 実施に必要な機材の不足が問題となっている。

文化遺産救済登録計画においてはハリケーン・ミッチによる一時的な中断の後全国規模での展開が再開されているが、特に「ホ」国東部やコマヤグア県における文化遺産の登録業務が緊急の課題となっている。

現時点で早急に解決されなければならない課題は次の通りである。

- ・ 「ホ」国内の住宅開発に伴う遺跡の消滅防止
- ・ ハリケーン・ミッチや大雨により被害を受けた遺跡の修復
- ・ 考古学サイトを公開する為に従事する遺跡の保存・修復・警備等の人員と財源の確保
- ・ 上記のような行き過ぎた調査・発掘の後放置されているサイトや試掘後のトンネル管理・保存・修復または埋め戻し
- ・ 「ホ」国東部の未開発地域（モスキーティア等）における盗掘防止
- ・ 遺跡保存方法の改善
- ・ 出土品や過去の発掘・調査データの管理

³ 増改築が繰り返されてできた丘上に神殿等の集合都市が建設されている。

⁴ コパン川の浸食により露出されたコパン遺跡アクロポリスの断面。断面に何層もの漆喰の床が現れ、マヤの建築が、各時期に増改築を繰り返した様子が観察される。学術的に貴重な資料となっている。

・ 公園施設管理の合理化

このような状況を改善する為に IHAH は、調査・発掘・修復用機材、広報、啓蒙活動機材、公園環境整備機材といった「ホ」国の考古学活動に必要な機材調達のための無償資金協力を我が国に要請（表 - 1）してきた。本プロジェクトは右機材の調達を通し、「ホ」国内に点在するマヤ文明及び非マヤ文明遺跡の調査研究及び保存の促進に寄与することを目的とする。

表 - 1 要請内容

No	機材の種類	機材内容
1	通信・運搬機材	トラック (3)、ピックアップトラック (3)、HF 無線機、VHF 無線機
2	発掘・調査機材	ダンプトラック (1) トータルステーション、セオドライト、レベル、GPS、発掘用具、写真撮影機材、撮影用足場、ビデオ撮影機材、ベルトコンベヤー、環境調査機器、地中レーダー探査機、ファイバースコープカメラ
3	分析・修復機材	P/C 及び周辺機材、スキャナー、製図用機材、土壌分析機器、出土品洗浄機材、出土品実測機材、修復用足場、発電機
4	視聴覚（啓蒙）機材	マルチプロジェクター、スライドプロジェクター、ビデオ放映機材、ビデオ編集システム、コピー機
5	収納機材	出土品収納コンテナ、ラック、プレハブ倉庫
6	公園環境整備機材	芝刈機、チェーンソー、水ポンプ、溶接機、発電機